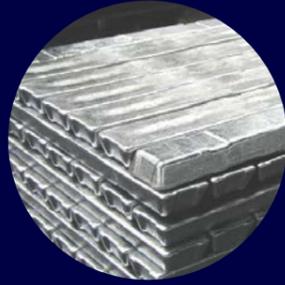


Ahresty Report

2019

For the year ended March 31, 2019





Ahresty

Research, Service, Technology

を追求していきます

アーレスティは、R・S・T〈Research〉〈Service〉〈Technology〉という三つの言葉の統合です。

Rは単に研究・開発だけでなく、より一層お客様のお役に立っていくための創意と探求、

Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点、

そしてTはこのRとSを支える知識と技術を示しています。

私たちは常に、より品質の高いResearch、Service、Technologyを追求し、

さまざまな製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

CONTENTS

■ 株主・投資家の皆様へ	4
■ 事業環境と中期経営計画	6
□ 1618 中期経営計画の振り返り	
□ 事業環境から見るアーレスティのリスクとチャンス	
□ 1921 中期経営計画	
■ 持続的な成長のために	12
□ ガバナンスの取り組み	
□ 成長と働きがいを感じられる風土づくり	

□ 環境にやさしい企業の実現	21
■ 事業の概況	21
□ ダイカスト	
□ アルミニウム合金地金	
□ 完成品	
□ 連結財務ハイライト	
■ 企業情報	26
□ 拠点情報	
□ 会社概要・株式情報	



経営基本方針

常に生きいきと活動し
理論と実験と
創意と工夫を尊重して
品質のすぐれた製品と
行き届いたサービスを提供しよう

中期経営計画と持続的な成長のための 取り組みについて

当社の10年ビジョン「信頼を究めよう 2025」に向けて2016年度から2018年度まで「1618中期経営計画」を推進してきました。「お客様からの信頼 No.1」に向けた活動では、ダイカスト工場の品質クレーム総件数を2015年度比56%減少することができました。その結果いくつかの主要なお客様より品質関連の表彰を受賞することができ、信頼の向上につながっております。「グローバルで車の軽量化に役立つ」活動では、2021年度の売上増加に向けた営業活動を積極的に展開した結果、エンジン・トランスミッション部品に加え電動化部品の受注を獲得することができました。世界経済の先行き不透明感はあるものの、2021年度は2018年度比1割以上の売上増加を見込んでおります。

「人材育成」においては、全工場における教育・訓練の水準を向上・統一するために教育体系や教科書の見直しを完了し、グローバルで同一水準の教育・訓練の実行に移行しております。また現場管理監督者教育を国内外統一水準で行い、多く

の修了者を生み出しました。

しかし、収益面では製品価格の値引きや人件費・燃料費などの上昇により減益となりました。特にアメリカ工場の生産性改善には時間を要し、2019年度から2020年度にかけて売上の減少も見込まれるため、最終年度の2018年度に減損損失を計上いたしました。株主の皆様にはご心配、ご迷惑をお掛けし申し訳ありません。アメリカ工場における改善活動は、品質クレームも2015年度比70%減少し生産の安定化、生産性向上などにも成果が出ております。2021年度からの新規製品受注による売上増加に向けて、更に基盤の整備を進めております。

2019年から新たに始まった「1921中期経営計画」は、急速に進む電動化、海外同業者との競争激化といった事業環境への対応を見据え「1618中期経営計画」の振り返りを行い策定いたしました。

HVやPHVの拡大が進む中、電動化部品の需要が世界的に増加しております。これらの受注活動と共に自動車の構造部材の開発・受注活動を強化してまいります。品質面では更に品質システムの強化と技術力の向上を進め、お客様からの信頼を向上させてまいります。特に稼ぐ体質を強化すべく原価低減にこだわりをもって生産性の向上、リーンな生産体制の構築を進めてまいります。これらを推進するひとつづくりでは、働きやすい環境づくりと個々人のスキル強化に向けた教育・訓練を継続いたします。

当社の経営基本方針では、一人ひとりが生きいきと活動できる環境を構築していくことを基盤としております。そのために、現場を中心とした作業環境改善活動を「1921中期経営計画」においても推進いたします。また、働き方の多様化に対応する新たな人事制度の導入、フレキシブルな勤務形態の拡充、残業など時間外勤務の管理厳格化、ダイバーシティへの取り組み、

従業員満足度向上にむけた諸施策を進めております。組織ガバナンスでは、指名報酬委員会の設置、株式報酬制度の導入などを進めました。更に6か国に広がる生産拠点に対して多言語での情報の発信や同一機能部署間の改善活動を通じた連携強化、現場改善事例の共有やグローバルQCサークル大会での交流など、アーレスティグループの一人ひとりが共に生きいきと活動できる環境づくりを進めております。

皆様のご理解、ご支援を引き続きお願いいたします。

代表取締役社長
最高執行責任者 **高橋 新**

事業環境と中期経営計画

1618 中期経営計画の振り返り

当社では長期的な経営の方向性を示した「アーレスティ 10 年ビジョン」をベースに、ものづくりを究め進化させ、アーレスティプロダクションウェイを確立することを基本方針とし、2016 年からの 3 ヶ年で 1618 中期経営計画を進めてきました。

大型高難易度製品の顧客評価 No.1

エンジブロックやトランスミッションといった大型で難易度の高い製品に加え電動化部品の受注を獲得。売上高は為替が円高に振れて 1,454 億円の実績でしたが、当初計画作成時のレートでは 1,513 億円と目標値を達成。国内外での積極的な営業活動により、受注増加に成果が見られ、2021年度の売上高は 1 割以上の増収となる見込み。

ものづくりを究める

グローバルで仕組みを統一し、同質のものづくりと品質の実現に向け前進。特に品質面においては、2015 年度比で品質クレーム件数を 56%減少し、お客様からの信頼が向上。主要顧客から品質関連の表彰を受賞。(16 ページ参照)

生きいきと活動する会社を築く

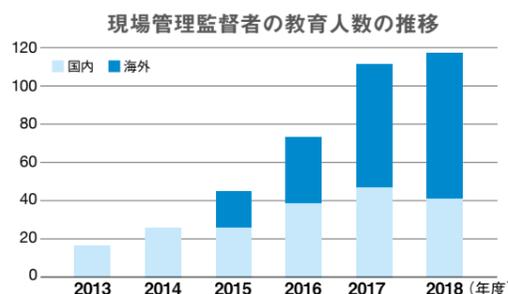
RST Way の浸透・実践を深める活動推進と国内外で同一水準の教育が行える環境の整備が進み、企業風土づくり、ものづくりを支えるひとつづくりが前進。

収益力を高める

原価低減や生産性向上等のものづくりを究める施策とともに、各グループ企業、工場の投資効率、資金効率の改善等を進めることで収益力を高める施策を推進するも、全体としての水準を大きく改善するには課題を残す。

リスク管理を徹底する

取引先も含め、BCP の訓練等により事業継続力を向上。グローバル各国・地域に応じたリスクの想定と事業継続計画の策定・訓練も実施。



事業環境から見るアーレスティのリスクとチャンス

2050 年の事業環境 - 当社の事業に影響を及ぼす重要な社会事象 -

地球温暖化 新興国での自動車需要拡大 国際的な通商貿易環境 国内の少子高齢化
自動車の燃費規制強化 自動車産業の変革 (CASE)

RISK

自動車の電動化に伴う内燃機関への影響

当面は従来型のエンジン搭載車に加えHVやPHVといった内燃機関を持つ自動車の需要が増加するものの、長期的には電動化に伴い減少していく可能性があります。将来的なリスクに備え、電動系部品、構造部材の開発、受注活動も積極的に進めています。

アルミ以外の自動車部品素材との競争

自動車の軽量化ニーズの高まり等から、自動車部品のマルチマテリアル化が進んでいくと考えられています。製造工程、コスト等に与える影響が大きいため、現段階ではどの素材を採用するのか各自動車メーカーともに検討段階であり、その動向を注視していきます。

ローカルダイカストメーカーとの競争

中国・インドなど自動車市場の拡大とともに、ローカルダイカストメーカーとの競争も増えてくるのが予想されます。当社では、1921 中期経営計画で品質、技術で顧客の信頼を高め、また生産性向上により競争力強化も図ってまいります。

CHANCE

グローバルでの自動車需要の拡大

世界的に見てもダイカストメーカーで 5 か国以上に展開している企業は数社ほどしかありません。HV、PHV の需要増も含めたグローバルでの自動車生産台数増加に伴い、当社の得意とするエンジン回りの大型で難易度の高い製品で貢献していきたいと考えています。

ダイカスト製品生産のアウトソーシングの流れ

自動車メーカーでは、燃費規制対応、自動運転車開発など様々な面での投資が必要となっています。ダイカスト製品の生産は当社のような専門メーカーへのアウトソーシングの方向に進んでいると考えられ、受注拡大の機会は増加すると考えています。

燃費規制の強化による軽量化ニーズの拡大

軽量化ニーズへの対応として、小型化や車体構造の変更の他、軽量化材料への転換が進んでいます。様々な競合素材はあるものの、軽量で設計自由度の高いアルミダイカストがこの軽量化に貢献する機会は大きいと考えています。

1921 中期経営計画

100 年に一度の変革期といわれる自動車産業において、お客様からの信頼を究め社会に貢献し、持続的に成長するためには、将来の自動車市場を見据えた事業戦略、高いレベルの品質・生産性による稼ぐ力のアップ、アー

レスティの成長を支えるひとつづくりの 3 つが経営の重要課題だと捉えています。この 3 つを 2019 年度からスタートする 1921 中期経営計画の柱として、グループの総力を結集し、スピード感をもって取り組んでいきます。

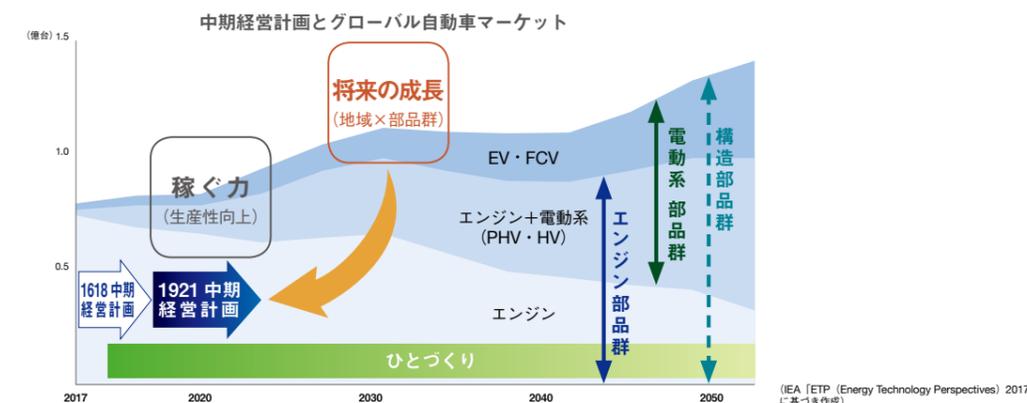
アーレスティ 10 年ビジョン

信頼を究めよう 2025

- お客様からの信頼 No.1
- グローバルで車の軽量化に役立つ
- 売上高 2000 億円 + α

1921 中期経営計画の基本方針

- 将来の自動車市場を見据えた事業戦略
- 生産性向上、品質向上による稼ぐ力のアップ
- 企業の成長を支えるひとつづくり



事業環境と中期経営計画

将来の自動車市場を見据えた事業戦略

KGI ・顧客からの高評価獲得
 ・2025年度の売り上げ目標 2000億円+α達成

将来の自動車市場の変化を見据え、地域ごとのニーズに応える部品群の開発・受注活動を行っています。また、従来のエンジンブロック・トランスミッションを中心とした内燃機関搭載車向けの部品群に加え、車の軽量化や燃費規制強化に対する顧客ニーズに応えられるように、構造部材の開発・受注活動にも注力していきます。それを支える鋳造、加工、金型、合金など各製造工程での技術力の強化、標準類の整備と運用を推進し、全ての拠点で高いレベルの品質・生産性を実現していくことで、アーレスティグループの信頼向上を目指していきます。



受注拡大に対応した工場の増築

従来のエンジン部品の受注増加に加え電動系部品の新規受注等に対応し、工場を増築しています。

■ 合肥アーレスティ



新鋳造工場外観

【新鋳造工場】2018年3月竣工 面積：5,103㎡
 【新加工工場】2018年9月竣工 面積：12,856㎡
 【事務所棟】2018年10月竣工 面積：3,509㎡

■ アーレスティ山形



【第1加工棟】2019年1月竣工 面積：1,250㎡
 【溶解棟】2019年9月竣工予定 面積：650㎡

■ アーレスティブリテック（豊橋工場）



【第4加工工場】2019年9月竣工予定 面積：4,575㎡



自動車産業が変革期と言われる中で、競争相手もめまぐるしく変化しています。一方、CASEに代表される Electric 分野では車の電動化が進み、HV、PHV といった内燃機関を要する車の需要増加に伴いアルミダイカスト需要もグローバルで広がりを見せています。アルミダイカスト製品は、軽くてリサイクル性に優れ、寸法精度が高いのが特徴です。環境規制の強化に伴う車体の軽量化ニーズに対し、ボディやシャシー等今までは異なる部分でもアルミダイカスト需要が増えていくと考えています。機能要求が高く、難易度の高い中大型部品を世界のOEM、Tier1 メーカーに提案し、市場の期待に応えられるよう活動を推進していきます。

取締役専務執行役員 営業本部長 **金田 尚之**

生産性向上、品質向上による稼ぐ力のアップ

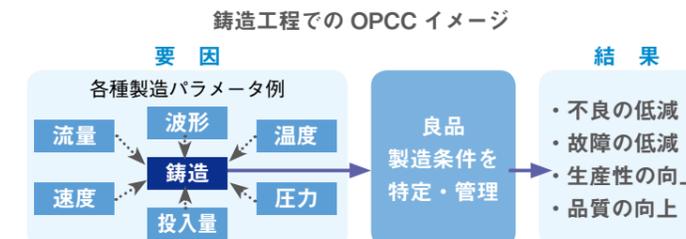
KGI ・連結営業利益率目標 5.0%

お客様からの信頼を究め、社会に貢献し、持続的に成長していくためには、稼ぐ力を高めていくことが重要です。ものづくりで稼ぐために、「最適な良品製造条件(OPCC)でのものづくり」の実現による生産性の向上、製造原価の低減を推進していきます。また生産体制の合理化・省人化、在庫の削減など、グループすべての力を結集し、価格競争力の強化に結びつけていきます。



最適な良品製造条件(OPCC※)追究活動

※OPCC…Optimal Process Condition Controlの頭文字をとった造語
 アーレスティでは各種の製造パラメータと品質との因果関係を捉えて管理することにより、検査による品質保証から脱却し、不良を作らない製造工程の確立を目指すOPCC追究活動に取り組んでいます。



からくり工房を新設

2019年4月より製造本部内に「からくり工房」を新設しました。人に依存している工程間の物の運搬、セッティング等の付随作業は時間的なロスを生みやすく、個人差があります。動力源を

必要としない「からくり機構」を製造工程に取り入れていくことで、投資を抑制し電力等のランニングコストのかかる設備に頼らない生産効率の向上を目指します。

ものづくりにおける無駄を徹底的に排除し、生産性の向上と製造原価の低減に取り組みます。「工程設計、設備条件の見直しによる生産タクトタイムの短縮」、「全工程での「最適製造条件」の追究と展開による、不良が作れない製造工程の実現」、「壊れにくく、止まりにくい設備・金型の設計およびその予防保全の強化」、「リニアな生産ライン実現のための、自動化、からくり活用、動線短縮による省人化と在庫削減」、「金型の設計・製作工程の改革」。以上の重点施策を、部署・部門・グループ会社の枠を超えたクロスファンクショナルチームで協働して推進していきます。



代表取締役専務執行役員 製造本部長 **伊藤 純二**

事業環境と中期経営計画

企業の成長を支えるひとづくり

- KGI**
- ・従業員が安全に心身ともに健康で働きやすい職場の実現
 - ・従業員が常に生きいきと活動でき、働きがいを感じられる風土づくり

企業の成長を支えているのは「人」です。一人ひとりが常に生きいきと活動でき、働きがいを感じられる風土づくりを行っていきます。グローバルで活躍出来る人材の育成に継続的に取り組み、やりがい・誇りを持ちながら会社と従業員が共に成長出来る企業

を目指していきます。加えて作業環境の改善により、災害や事故の無い、安全で心身ともに健康で働きやすい快適な職場づくりを実現していきます。

安全で働きやすい職場の実現に向けた取り組み

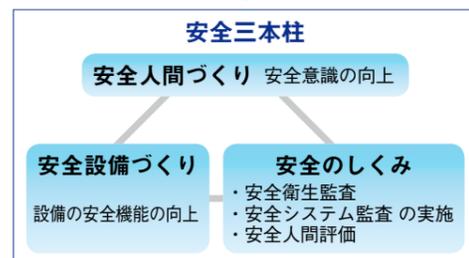
重点取組項目

- 作業負荷の低い職場 (エルゴノミクス) の実現
- 快適な作業環境の実現
- 事故・災害の撲滅

■ 快適な作業環境への改善例

■ 快適な作業環境への改善例

- 快適な作業環境への改善例**
- 快適な作業環境への改善例
- 快適な作業環境への改善例
- 快適な作業環境への改善例



■ 快適な作業環境への改善例

■ 快適な作業環境への改善例

■ 快適な作業環境への改善例

■ 快適な作業環境への改善例

■ 快適な作業環境への改善例



必要な人材の戦略的な採用と育成



当社を取り巻く事業環境は100年に一度とも言われる大変革期にある中で、益々グローバル競争の激化が想定されます。このような事業環境下で当社の持続的成長を支えるひとづくりは、従来の延長線上の施策だけでは不十分であると認識しております。

10年ビジョン「信頼を究めよう2025」を目指した、今期からの第2期目の3ヵ年計画では、1期目の施策による成果を維持しつつ、中長期の事業戦略に合致した戦略的人材育成計画（人材ロードマップ）に基づく人材育成を中心に、安全で快適な作業環境の下で従業員一人ひとりが常に生きいきと活動し、成長と働きがいを実感できる風土づくり実現のため、施策を展開してまいります。

執行役員 管理本部長 **辻 鶴男**

「1921 中期経営計画」目標値

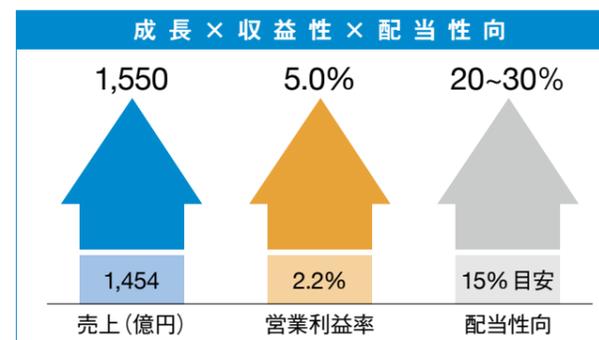
	2018年度(実績)	2019年度(計画)	1921 中期経営計画 (目標値)
売上高	1,454	1,340	1,550
営業利益率	2.2%	2.0%	5.0%
総資産利益率 (ROA)	0.3%	—	3.5%
自己資本利益率 (ROE)	0.7%	—	8.0%

中長期的な事業発展・企業成長のための財務体質と経営基盤の強化

適正な利益還元

適正な利益還元の実施

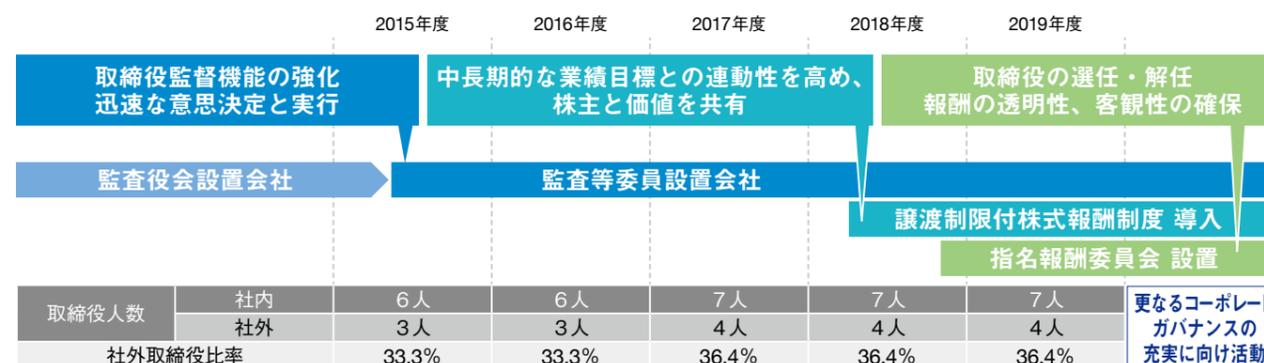
事業戦略による売上の確保と利益率の向上により、適正な利益還元を実施していきます。



- 3年間で18年度比約10%の売上増と利益率5.0%を目指し、収益体質の改善を図っていきます
- 収益性の強化により、健全な財務体質を維持しながら投資効率も高め、企業成長をしていきます
- 従来15%を目安としていた配当性向を上げ、株主還元への拡充を目指します

事業活動の基盤コーポレート・ガバナンス

持続的な企業価値向上のために、事業活動の基盤となるコーポレート・ガバナンスの充実に今後も継続的に取り組んでいきます。



※取締役人数は各年度の株主総会実施後の体制を記載

持続的な成長のために

アーレスティでは、事業活動を通じて関連する ESG（環境、社会、ガバナンス）課題に対応していくことが、企業の社会的責任を果たし、社会と共に持続的な成長をしていくために重要と考えます。

中期経営計画では、軽くてリサイクル性に優れたアルミ

ダイカスト製品の採用部位拡大による自動車の軽量化への貢献、生産性向上の結果としての CO₂ 原単位や水使用量等の削減等に取り組む一方、日々の事業活動を通じて以下のテーマに注力して取り組んでいきます。

注力する取り組み

分野	注力するテーマ	関連する主な SDGs 項目
ガバナンス	高い透明性を保ち迅速な意思決定ができる経営体制の確立	・コーポレートガバナンスの充実
		・リスク管理の徹底
		・コンプライアンスの徹底
		・株主・投資家との建設的な対話
社会	成長と働きがいを感じられる風土づくり	・安全で働きやすい職場の確保
		・働き方の多様化への対応
		・高い品質と生産性の確保
		・ものづくりを支えるひとづくり
		・地域社会と共に
環境	環境にやさしい企業の実現	・アルミダイカスト製品を通じた車の軽量化への貢献
		・アルミスクラップからの地金製造
		・製造工程での環境負荷の低減



ガバナンスの取り組み

ビジョン・方針の体系

社員一人ひとりの日常管理活動の推進が、中期経営計画、10年ビジョン、経営基本方針の実現へとつながり、アーレスティが目指す豊かな社会を実現すると考えます。

コーポレートガバナンス体制

当社は、業務執行取締役等への権限委譲による経営効率の向上を図り、取締役会では経営に関する重要事項を中心に決定する体制とするため、監査等委員会設置会社へと移行しています。2018年度には取締役会を13回開催し、中期経営計画等の経営戦略、コーポレートガバナンス、グループ経営管理などの議案に対して、社外取締役からも意見をもらい活発な議論を行っています。取締役会の実効性評価にあたっては2018年度より、取締役会運営等の一層の改善を図るためアン

ケート方式での自己評価を導入し実施しています。また当社グループの業務の適正を確保するため、「経営計画管理規程」及び「関係会社管理規程」に従ってグループの経営管理を行い、月1回定例開催している工場長会議等でのモニタリングを行っています。

取締役 (監査等委員である取締役を除く)	6名
監査等委員である取締役	5名 (内、社外取締役4名)

譲渡制限付株式報酬制度による役員報酬

当社は、10年ビジョンと中期経営計画の実現に向けて、①当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えること、②株主の皆様との一層の価値共有を進めること、③中長期的な業績目標との連動性を一層高めること、の3点を目的として役員報酬体系の見直しを行い、2018年度より譲渡制限付株式報酬制度を導入しております。本制度は、当社の中長期的な業績目標達成を条件とする「業績連動型譲渡制限付株式」、一定期間継続して当社の取締役を務めることを条件とする「勤務継続型譲渡制限付株式」により構成されております。譲渡制限付株式の一部を、中期経営計画の達成状況や業績等に基づき報酬額を決定する仕組みとすることで、より中長期的な観点での業績向上や株主の皆様との価値共有を図ってまいります。

	業績連動型 譲渡制限付株式	勤務継続型 譲渡制限付株式
譲渡制限期間	原則中期経営計画にあわせ 3年	30年
譲渡制限解除条件	勤務条件 業績条件 ※業績条件：「1921中期経営計画」で定めた経営指標（売上高、営業利益率、総資産当期純利益率（ROA）、自己資本当期純利益率（ROE））で評価	勤務条件

指名報酬委員会の設置

取締役の指名及び報酬の決定に関する手続の公正性・透明性・客観性を強化し、コーポレートガバナンスの充実を図るため、取締役会の任意の諮問機関として2019年1月に指名報酬委員会を設置いたしました。委員は3名以上、その過半数を社外取締役で構成しています。取締役の選任・解任等について、取締役会に先立ち必要に応じて開催しています。

指名報酬委員会の役割
<ul style="list-style-type: none"> 取締役の選任・解任（株主総会決議事項）に関する事項 代表取締役の選定・解職に関する事項 取締役（監査等委員を除く）の報酬等に関する事項 取締役（監査等委員）の報酬限度額（株主総会決議事項）に関する事項 取締役の後継者計画（育成を含む）に関する事項 その他経営上の重要事項で、取締役会が必要と認めた事項等について、取締役会の諮問に応じて審議し、取締役会に対して答申を行います。

SDGs (持続可能な開発目標) とは

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標です。

持続可能な世界を実現するために、発展途上国、先進国に関係なく全ての国が2030年までに達成すべきものとして、17の大きな目標と169の具体的なターゲットで構成されています。

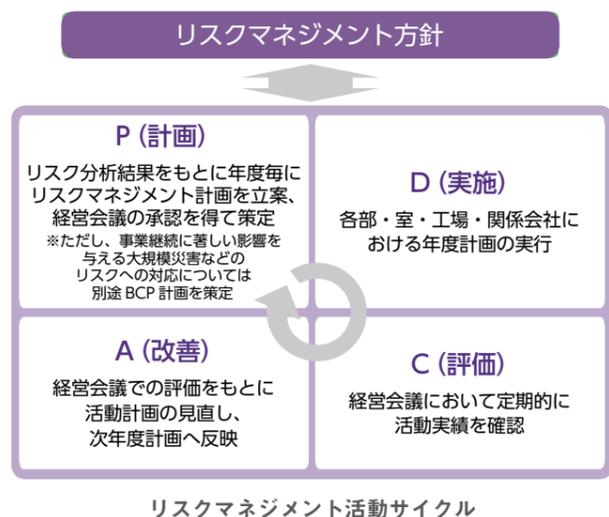


持続的な成長のために

リスク管理の徹底

BCP 訓練、リスクマネジメントなどにより想定リスクに対する事業継続力を高める努力を続けています。2018 年度は国内外全ての工場で BCP 訓練を実施しました。加えて、緊急事

態発生時に設置される「本社対策本部」のメンバーを対象に、対策本部としての行動の理解や役割の認識、課題の洗い出しを目的とした訓練も実施しています。



コンプライアンスの徹底

アーレスティハンドブックに、コンプライアンス基本方針及びアーレスティグループ行動規範等の社員が理解しておくべき内容をまとめ、日本語、英語、中国語、スペイン語、ヒンディー語、タイ語の6カ国語で発行しています。勤務中は常に携帯し、企業倫理の徹底と遵守に努めています。また、当社社長を委員長とするグローバルコンプライアンス委員会を年2回定例開催し、グループ全体のコンプライアンス上の課題と対応の議論を行っています。



株主・投資家との建設的な対話

持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、株主・投資家等と建設的な対話を行い良好な関係を構築・維持していくことが重要と考えます。決算説明会、経営方針説明会等

を実施し、法令に基づく開示以外の情報も積極的に提供しています。また対話を通じて得られた意見は経営にフィードバックを行い、企業価値向上に活かしています。

成長と働きがいを感じられる風土づくり

安全で働きやすい職場の確保

アーレスティでは、安全最優先の原則のもと「アーレスティ安全理念」を掲げ、生産活動を行っています。様々な安全衛生活動を行い、全社をあげて安全で働きやすい職場を目指しています。

アーレスティ 安全理念

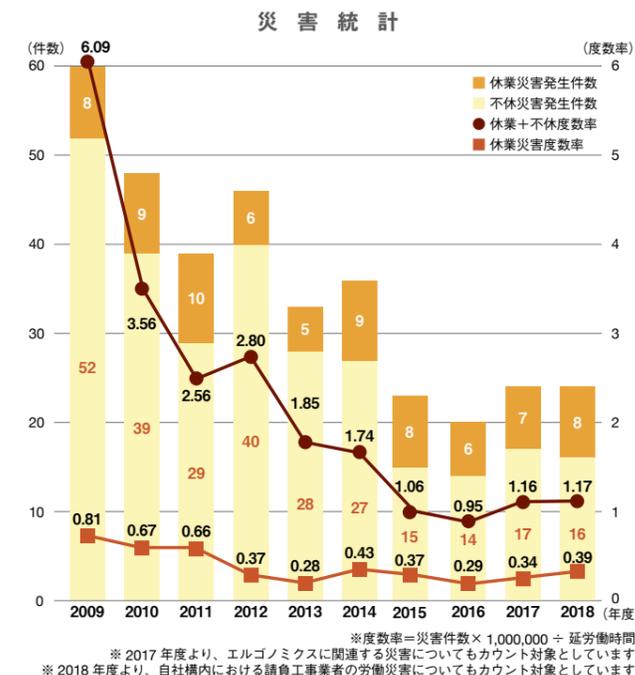
1. 安全は、全ての作業に優先する
2. 安全は、いかなる業務よりも重要である
3. 安全は、常に生産効率よりも優先される
4. 安全は、職場の整理・整頓・清掃から始まる
5. 安全を優先できない人は、アーレスティには不要である

アーレスティグループ 安全スローガン (2019年度～2021年度)

「見つけよう！作業に潜む危険箇所。
ルールを守って、安全考動！！」
※「考動」：“考”えて行“動”するという意味の造語です

2018 年度重点活動実績

- 非正常作業による災害を無くすため、KY能力の向上、非正常作業におけるルール遵守（声だしKY実施、非正常作業表示板の活用）徹底活動
- 管理職・監督者・安全管理者による非正常作業の現場観察と指導能力の向上
- 設備・機械の更なる安全化
- 「安全人間」づくりの推進



「安全人間」づくり

管理監督者並びに作業員がそれぞれに合った安全に関する知識を持ち、日々それを実践して安全に日常業務を遂行できる「安全人間」をつくっていく活動です。2018年度は、各作業のより具体的なルールを評価項目とし、理解度テストやアンケート形式による実施度チェックを行い、職場ごとの弱点分析を進めました。

安全体感教育

職場に存在する様々な危険を具体的に示し、「見て、聞いて、感じる」という人間の基本的な働きを通じた直感的な理解を促すことで、危険感受性を高める教育を推進しています。過去、アーレスティで発生した重篤な災害や潜在するリスクなどから科目を設定し、各事業所で安全体感教育を進めています。



働き方の多様化への対応

働き方の多様化に対応することと、従業員一人ひとりの成長を目的に、2019年4月より(株)アーレスティに新人事制度を導入しました。ライフスタイルやキャリアビジョンなどに合わせ、働き方を自身で選択できる「コース制度」を新たに設定。また、クラス・給与・賞与・評価制度についても見直しを図り、職務

領域をエキスパート職群とマネジメント職群に分け、役割階層のもと業績クラスで分けられる「クラス制度」を設定しました。また、「働き方改革」への対応として、同一労働同一賃金充足のための手当、休暇制度等の見直しやフレキシブルな勤務方法の拡充のためにテレワーク勤務(在宅勤務)の導入等も進めています。

持続的な成長のために

高い品質と生産性の確保

常に安定した品質の製品を提供していくことで、お客様からの高い信頼につながっていきます。また、お客様からの高い評価は、アーレスティで働く一人ひとりのものづくりに対する誇り、やりがいにもつながるものと考えています。

品質気づき提案

ものづくりには現場での日常の改善が欠かせません。改善の源となるのが、日々の気づきです。特に品質に焦点を当て、日々の“気づき力”を高めることを目的に、アーレスティでは2012年度から「品質気づき提案」を実施し、品質の維持、向上につなげています。気づき、提案し、改善が実施された「品質気づき提案」の中から、毎年11月の品質月間に優れた事例が表彰されます。2018年度は1,414件の個人提案と190件のグループ提案があり、5名、1グループの優秀提案が表彰されました。

QCサークル活動

1971年より実施しているQCサークル大会を、2015年度からは海外拠点も加えた国内外の全21事業所が参加するグローバルQCサークル大会として開催しています。国内外の外部大会にも盛んに出場し、賞を受けるなどの成果を上げています。インドでは全国大会「National Convention on Quality Concepts」で、約2000チームが参加する中2番目に価値のある『Excellent』を受賞、東京で開催される国際大会への出場権を手に入れました。



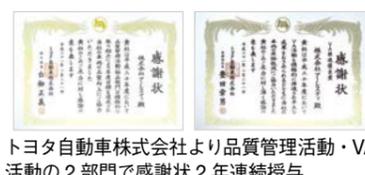
2018年度 主な表彰・受賞



株式会社ユニバンスより、北米におけるFF用トランスファアの早期量産立ち上げが評価され生産協力賞を受賞



スズキ株式会社より海外貢献部門において感謝状授与



トヨタ自動車株式会社より品質管理活動・VA活動の2部門で感謝状2年連続授与



アーレスティンディアが Maruti Suzuki India Limited より Overall Performance を2年連続受賞

JATCO Mexico, S.A. de C.V. より増産へのフレキシブルな対応が評価され、アーレスティメヒカーナがベスト・パフォーマンス賞を受賞



合肥アーレスティが自動車発動機製造有限公司より品質貢献賞を2年連続受賞



株式会社豊田自動織機より、オイルパン機械加工・ASSY工程の短期生準が評価され特別賞を受賞



アーレスティでは Ahresty Standards の構築に取り組み、グローバル全拠点で同一の品質、生産性を目指しています。そのためには「ものづくりの基本を守り、自工程保証度を向上させる」ことが重要だと考えています。新規品では、設計との連携を今まで以上に強化して生産準備の質を上げることで、量産時の安定した品質と生産性の向上を目指します。また量産品については、工程 QC 表と実作業の検証による各プロセスの改善により、製造工程での品質のバラツキを低減します。基本を守りきることが大切です。そのための仕組みづくりと現場での日々の改善活動により、基本を守ったものづくりを進め、今後お客様からの満足度向上、信頼度向上に向けて改善を続けてまいります。

執行役員
品質保証本部長 兼 品質管理本部長

間 淵 高 徳

ものづくりを支えるひとづくり

技術と品質を究め、お客様や社会の期待に応え続けていくためには、常に高いレベルを目指したひとづくりが欠かせないとアーレスティは考えています。国内外全拠点同一水準で体系的に教育を受けられる体制を整え、ものづくりを支えるひとづくりを推進しています。

グローバル RST ラーニング

創業時から蓄積してきたものづくりのノウハウを伝承する「RST学園」を2016年度より海外展開し、グローバルで全社員が同一水準の教育を受講できる教育体系を整備しています。2018年度海外では、開催拠点を1拠点増やし6拠点での受講が可能となり、延べ2,008名が受講しました。必要な教育を誰でも受講でき、標準の大切さを演習で体験する教育を推奨しています。



Global Kaizen Meeting

Global Kaizen Meeting は、グローバル全拠点で技術力・技術水準を向上させることを目的に開催しています。年に一度、技術者が一堂に会し、事例発表やグループディスカッションを通じて、技術交流・相互研鑽を図りながら問題の改善点を探り、今後に向けた取り組みを重ねています。2018年度は国内外各拠点より46名の技術者が参加し、『製造OPCC』のテーマの下「真空インフラ仕様・真空波形の監視ポイント」等に関するグループディスカッションと発表を行いました。



地域社会と共に

企業が持続的に成長していくには、地域社会が発展し、社会と共に成長していくことが重要だと考えています。雇用の創出、教育機会の提供、地域社会との交流等を通じ、地域社会の発展に寄与していきます。

アーレスティンディア、経済産業省より日本式ものづくり学校に認定

日本・インドの両政府が推進するものづくり技能移転推進プログラムに参画し、2018年7月、アーレスティンディアに日本式ものづくり学校「アーレスティ JIM」を開校。第一期生として43名が入校しました。スズキ株式会社、トヨタ自動車株式会社、ダイキン工業株式会社、ヤマハ発動機株式会社、日立建機株式会社に続く第6号の認定です。1年間のプログラムで一般教養等の座学、語学（英語）に加え、実技では鋳造・加工・金型・設備・品質管理・鋳造技術・生産管理・新規推進など、各工程の実習により日本式ものづくりを学び、日系企業の製造現場で中核を担える人材の育成をめざします。



第一期アーレスティ JIM

【日本式ものづくり学校（JIM: Japan-India Institute for Manufacturing）】インドの製造業の発展に向けた人材育成を目的に、経済産業省とインド技能開発・起業省（MSDE）によって2016年11月に合意された「ものづくり技能移転推進プログラム」の一環

持続的な成長のために

環境にやさしい企業の実現

製造工程での環境負荷の低減

環境にやさしい企業の実現のため、公害防止活動や省エネ省資源への取組みに加え、アーレスティ独自の環境に関する啓蒙活動やコミュニケーション活動を実施し、従業員の環境意識の向上と製造工程での環境負荷の低減につなげています。

環境方針

1. 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
 2. 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取り組めます。
 3. 私たちは特に次の項目について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取組みます。
 - ①大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
 - ②廃棄物の再資源化率 100%を維持します。
 - ③廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
 4. 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的に進めます。
 5. 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。
- ～私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします～
- 2005年4月18日 改2
株式会社 アーレスティ 代表取締役社長 **高橋 新**

Ahresty eco ライセンス

社員の環境の知識向上を図るため、「Ahresty ecoライセンス」という、環境に関する独自の社内試験制度を設けています。年に数回の試験を実施し、現在まで8割を超える社員が合格し、日々の生産活動の中でも環境意識高く活動をしています。



アーレスティ・グリーン大会

アーレスティ・グリーン大会とは、社内における環境改善の活動事例報告会です。今回で第16回の開催となりました。ここで報告された効果的な活動は、他の事業所でも水平展開されており、コミュニケーションの場としても有効な行事となっています。



事業所	テーマ内容
東海工場	CO ₂ 原単位削減への取り組み
アーレスティプリテック	使用電力の削減
アーレスティ山形	汚泥管理・処理量の最適化によるBODの安定化
熊谷工場	電力量の削減
アーレスティ栃木	社会貢献活動における社内緑化活動
アーレスティダイモールド熊本	リユース作業の改善
東松山工場	2018年省エネ活動の紹介
アーレスティ熊本	2018年度環境への取組み 環境事務局活動
アーレスティテクノサービス	敷地内の緑化見直し

積極的な自然環境保護活動への貢献

アーレスティは、アルミダイカストの製造を通じて、自動車の軽量化、環境対応に貢献してきました。社員からの「仕事以外でも環境保護活動に貢献したい」という声をもとに、自然環境保護活動にも積極的に取り組んでおり、近隣の清掃活動や、里地里山保全など生物多様性にも寄与する活動を推進しています。



2018年度の環境目標と実績

製造工程での環境負荷の低減を図るため、環境目標を定め、生産活動を実施しています。

国内目標と実績

環境区分	中期目標	2018年度目標	2018年度結果	評価※	2019年度目標
大気 水質 騒音等	大気汚染、水質汚濁、騒音公害などの環境問題を発生させない	社外流出、苦情の不適合をゼロにする。	社外流出、苦情の不適合はゼロであった。	5	社外流出、苦情の不適合をゼロにする。
廃棄物	廃棄物の総量削減を進める	最終処分量（埋め立て）をゼロにし、再資源化率 100%にする。（鉍滓等のレンガくず及び耐火物、処理後の残渣を除く）また、総廃棄物原単位を、前年度比 1%以上削減する。	再資源化率については、対象 11 事業所中、10 事業所で目標達成となった。廃棄物原単位については、対象 11 事業所中、6 事業所で目標達成となった。	4	総廃棄物原単位を、前年度比 1%以上削減する。※再資源化率についても、監視と必要は正活動を続けていく。
省エネ 省資源	地球温暖化対策として、CO ₂ 総量削減を行う	CO ₂ 原単位を 2014 年度比 4%削減（すでに達成している事業所は前年度 1%削減とする）もしくは、全社事務局と協議の上決定する。電気需要平準化評価原単位を 2014 年度比 4%削減する。	主要 7 工場延べ実績では達成（845.kg-CO ₂ /t）に対して 829kg-CO ₂ /t）。事業所別では、対象 11 事業所中、6 事業所が目標達成となった。※電力係数は固定値で評価	3	CO ₂ 原単位を 2015 年度比 4%削減（すでに達成している事業所は前年度 1%削減とする）もしくは、全社事務局と協議の上決定する。※電気需要平準化評価原単位についても、監視と必要は正活動を続けていく。
	工程に使用する水の使用量を削減する	水使用量原単位を削減する。※目標値は各事業所設定による	対象の 6 事業所中、3 事業所で目標を達成した。	3	水使用量原単位を削減する。※目標値は各事業所設定による
その他	環境に対する意識を高める	各事業所において正社員の 77% 以上を「Ahresty eco ライセンス」合格者とする。すでに達成している事業所は、事業所個別目標を設定する。	13 事業所中 11 事業所で目標達成。累計として、合格者数 1,801 名（83.7%）となった。	4	Ahresty eco ライセンス活動は維持活動として進め、19 年度以降は「景観を意識した緑化活動」に取り組む。
	社会貢献活動を推進する	環境に関する社会貢献活動について、各事業所ごとに、開催回数目標値を設定する。	13 事業所中 11 事業所で目標達成。全社で 80 以上の企画が開催された。	4	環境に関する社会貢献活動について、各事業所ごとに、開催回数目標値を設定する。

グローバルでの環境管理のため、海外工場においても、CO₂削減、水使用量の削減など、国内同様の対象区分で環境目標を策定しています。

経年変化について

CO₂ は活動の削減効果の評価するため、CO₂ 換算係数を過去から固定値で算出しています。生産重量の増減はあるものの、活動の成果もあり、CO₂ 排出量原単位、排出物量等を削減しています。



燃料や電気の使用量を CO₂ 量に換算した値です。なお、折れ線グラフで電力会社公表の換算係数で算出した CO₂ 量を併記しています。



CO₂ 排出量を生産重量で割った値で、1t の生産にいくらの CO₂ を排出したかがわかります。



アーレスティが生産した製品の重量です。エネルギー使用量は生産重量に比例します。



鉄やアルミを除く、事業所からのすべての排出物です。

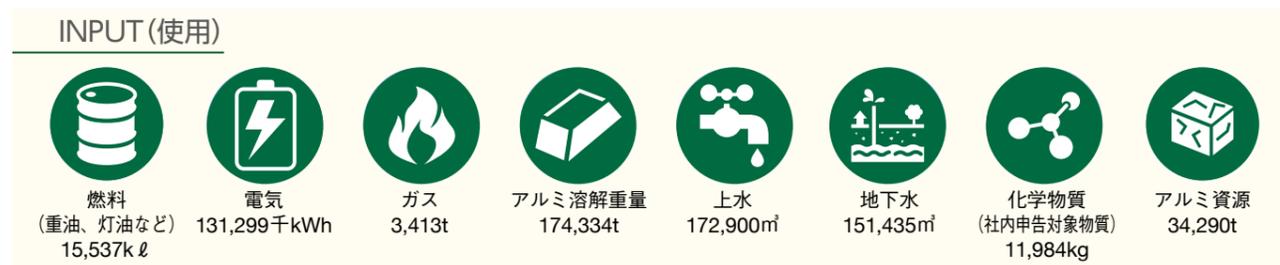


上水及び地下水の使用量です。2011 年度より水資源の節減も目標に加えています。

※国内主要 6 工場の数値

持続的な成長のために

マテリアルフロー 生産活動に必要なエネルギー、資材と生産に伴う排出。
製造工程での環境負荷低減のために必要なコストをかけ、設備等の導入を行っています。



Ahresty 対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日 (単位：千円)

分類	主な取り組みの内容	環境保全コスト		
		投資額	費用額	
事業所エリア内コスト				
内訳	公害防止コスト	排水処理設備管理・更新・設備導入、 排ガス処理及び集塵装置の維持管理、騒音対策	106,387	50,069
	地球環境保全コスト	省エネ活動（電気、重油）、省エネ設備導入、工場緑化、 維持電力監視モニター	72,729	15,925
	資源循環コスト	水の循環利用、廃棄物・資源ごみの処理（分別・処分）、再生油の使用	8,575	229,402
小計		187,691	295,396	
上・下流コスト	グリーン購入額	2,500	79,850	
管理活動コスト	環境委員会、内部監査、ばい煙・ダイオキシン・排ガス・騒音測定、 社内教育訓練、ISO14001 認証維持	0	20,001	
研究開発コスト	合金協会（環境保全テーマ）、地金中環境負荷物質調査	0	0	
社会活動コスト	工場見学の受入れ、地域清掃活動、近隣コミュニケーション活動、 ボランティア活動、NPO 寄付	0	240	
環境損傷対応コスト	汚染負荷量賦課金	0	2,742	
小計		2,500	102,832	
【収入】上・下流コスト	有価物売却額（鉄屑、廃プラ、シェル、廃油、廃紙などの買取総額）	0	133,456	
合計		190,191	398,228	

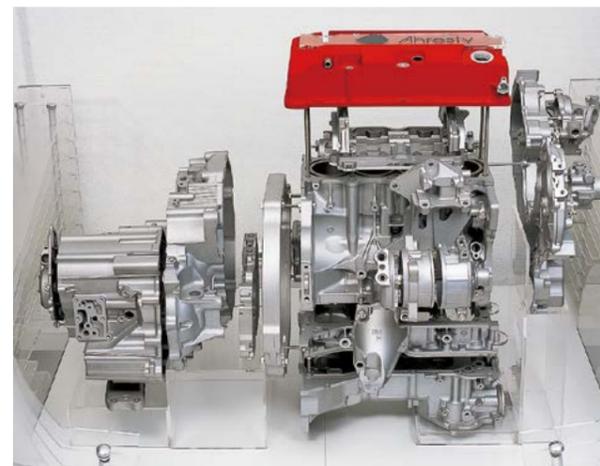
※投資は設備等固定資産になるもの、その他は費用として算出
※電力のCO₂排出係数は、最新の電力会社公表値（2017年度値）を使用



事業の概況

ダイカスト

多様化するニーズに応え強固な顧客基盤を構築
グローバルで事業を拡大



アーレスティの主力事業はアルミニウムダイカストです。自動車産業の発展とともにグローバルで事業規模を拡大し、売上を伸ばしてきました。

多様化するニーズに応える一方で、ダイカストのネック技術の原因解明を行ってきた結果、他社に先駆けて新技術を開発。従来ダイカストでできなかったものづくりを可能にし、品質や生産効率を向上させるなど、ダイカスト業界での地位を確立しています。

今後も、アルミニウムダイカストにおいて、軽量化等を通して自動車産業に貢献できるよう、さらなる技術革新を目指していきます。

主要なダイカスト製品

アーレスティが生産するダイカスト製品の9割以上は四輪自動車の部品です。その他に、オートバイ、発電機や船外機部品なども製造しています。

- アルミダイカスト製品
 - ・エンジン用
 - ・トランスミッション用
 - ・足回り部品 など
- 金型鋳物製品（グラビティダイカスト）
- その他
 - ・ダイカスト用金型
 - ・ダイカスト周辺設備
 - ・中古ダイカストマシン再生販売

ダイカスト製品の特徴

ダイカストのダイ（Die）は金型、カスト（Cast）は鋳物を意味しますが、一般的な意味のダイカストは、金型を用いて高速、高圧鋳造した鋳物やその製法を表します。ダイカスト製品の特徴は、生産性の高さや寸法精度に優れており、表面が滑らかな製品を製造することができるため、その後の加工処理が少なく済む利点があります。ダイカストのそのような特徴から複雑な形状で大量生産が必要な自動車部品などに多く用いられています。

私たちは、ダイカストのリーディングカンパニーです。

アーレスティは、自動車のエンジン、トランスミッションなどを中心に、様々なダイカスト製品を製造しています。近年では、自動車の軽量化ニーズに伴い、ボディ・足回り関連部品のダイカスト化を積極的に推進しています。

エンジン《自動車の心臓部》

自動車の心臓部であるエンジンには、たくさんのダイカスト製品が使われています。自動車の高機能化に伴うエンジン部品の高品質化、軽量化の求めに応じて、シリンダーヘッドカバー、カムブラケット、シリンダーブロック、ラダーフレーム、オイルパン、チェーンケースなどのエンジン本体部品の他、各種ブラケット類などの部品がダイカストで作られています。

ボディ《軽量化に貢献》

当社独自のHIGF法は、これまでの減圧ダイカスト法に比べキャビティ内の真空度を高めることで、より高品質な大型肉薄製品への適用が可能な工法です。HIGF法を活用したボディ部品のアルミニウムダイカスト化により、軽量化に貢献できると考えています。

トランスミッション《動力伝達の要》

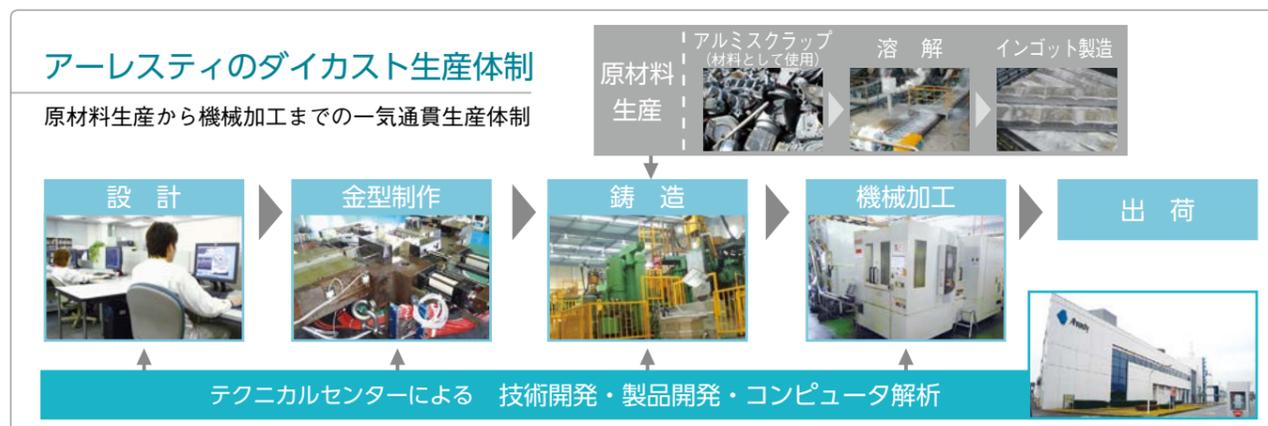
トランスミッションはエンジンで作られた動力を扱いやすい回転数に変換する機構です。大型、薄肉、複雑な形状に加え、高強度であるとともに寸法精度や外観品質が厳しく、トランスミッションケース、クラッチケース、ハウジングコンバーターをはじめ、オートマチックトランスミッションの油圧回路の制御に欠かせないバルブボディなどがダイカストで作られています。

足回り《走行安定性や走り心地に影響》

足回り部品の軽量化は走行安定性や乗り心地に大きな影響を与えるため、高級車を中心に急速に普及し始めています。足回り部品には剛性、強度、靱性、耐食性などが求められるため、NI法などの新しいダイカスト工法で対応しています。この工法で作られるダイカスト製品としてはデフメンバー、ステアリングナックルなどの部品があります。



事業の概況



今期の業績報告

【ダイカスト日本】

日本自動車市場では、国内販売、輸出向け生産共に前期比で概ね横ばいでの推移となっております。当社受注量は、第3四半期まではほぼ前年並みで推移しましたが、一部取引先の生産調整の影響を受けて、前期比減少となりました。売上高はアルミ地金市況の上昇や金型売上等の増加もあり 67,998 百万円（前期比 1.8%増）となりました。収益面においては、燃料費の上昇や減価償却費の増加等の影響を受けセグメント利益は 871 百万円（前期比 40.3%減）となりました。

【ダイカスト北米】

北米自動車市場は、主要顧客である自動車メーカーの販売がピークアウトを迎える中、普通車がシェアを縮小する一方で、小型トラックや SUV のシェア拡大が続いています。当社米国工場においても、小型トラックや SUV に搭載される部品の受注は好調であり、一昨年の一部部品の生産終了の影響を補い、前期とほぼ同じ受注量となりました。一方のメキシコ工場では、新規部品の量産本格化による受注拡大があったものの、主要顧客である自動車メーカーの北米市場での販売影響を受け受注の減少が見られました。この結果、北米セグメントでの売上高は 39,801 百万円（前期比 0.3%減）となりました。収益面においては、第2四半期での減価償却費の一時的増加や米国工場での改善プロジェクトの収益貢献の遅れ等の影響を受けセグメント利益は 123 百万円（前期比 57.5%減）となりました。

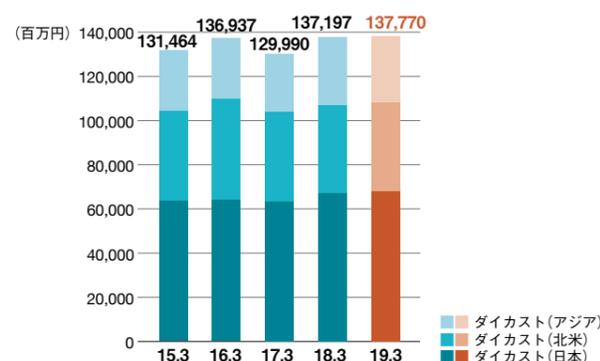
来期への展望

今後の経済見通しは、雇用・所得環境の改善が続くなかで、政府による各種政策の効果もあり、引き続き緩やかな回復基調が続くものと予想される一方、世界的な貿易摩擦の影響、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性等、不透明な状況が続くことが予想されます。

【ダイカストアジア】

中国では、主要顧客である自動車メーカーにおける販売が下期より減少に転じ、当社の受注量にも影響しています。一方、インドでは、好調であった自動車販売にやや陰りが見えてきたものの、新規部品の量産本格化等により、当社の受注量は増加しております。こうした受注増やアルミ地金市況上昇の一方で、インドルピーに対して円高方向に為替が推移した影響もあり、アジアでの売上高は 29,971 百万円（前期比 1.5%減）となりました。収益面においては、主に中国における労務費等が増加した影響等によりセグメント利益は 1,841 百万円（前期比 22.6%減）となりました。

売上高推移



このような状況の中、当社グループは、長期的な経営の方向性を示した「アーレスティ 10 年ビジョン」の「信頼を究めよう 2025」を基本方針に、ものづくりを究め進化させ、アーレスティプロダクションウェイを確立することを基本とした施策展開により持続的成長を目指してまいります。

アルミニウム合金地金

業界トップクラスの設備とノウハウで、多様な材料から高品質の製品を生産

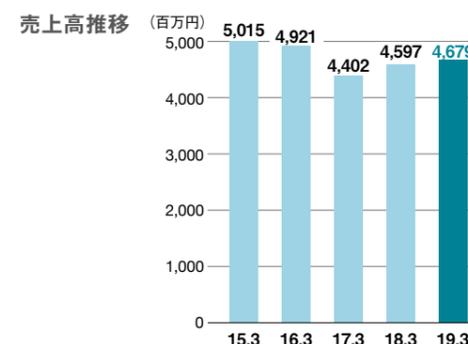


アーレスティのアルミニウム合金地金は、ダイカスト向け（AD系）合金や鋳物向け（AC系）合金の他、特殊用途向けのアルミニウム合金地金など、約40種類の地金を生産しています。全国から集まるアルミニウム缶、サッシ、自動車の解体スクラップなどの他に、アルミニウム新塊や添加材などの原材料をもとにアルミニウム合金地金を生産しており、アーレスティが持つ分析機器やノウハウを活用し、厳しい管理のもと、品質の優れた工業用地金を提供しています。

アルミニウム事業を行うアーレスティ熊谷工場は、1958年業界初の日本工業規格（JIS）表示許可工場、1997年全国初めて改正民活法におけるアルミニウム缶リサイクル施設として認定を受け、アルミニウム合金地金の現有月産能力は3,000トンです。生産された地金は日本各地へと出荷され、顧客から高い信頼を得ています。

今期の業績報告

販売量は前期に比べ減少しましたが、販売単価が前期より高い水準であったこと等により、売上高は 4,679 百万円（前期比 1.8%増）となりました。収益面においては、アルミ相場が高い水準で推移したことによる原材料価格の影響等を受け、セグメント利益は 112 百万円（前期比 47.5%減）となりました。



来期への展望

2018年度も自動車等の輸出産業による圧延品、鋳造品、ダイカスト品など好調な国内需要を反映し、当社におきましてもほぼ計画通りの売上高となりました。一方で為替相場の変動や米国によるロシア企業への制裁懸念、米中間の貿易摩擦の影響から市況変動が大きく、国内市況へも度々影響が出ました。

また中国以外の国からも割安感のある輸入塊が増加するなど、当事業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。その様な環境下においても、原価低減による価格競争力強化と生産性改善活動を推進していくことで、為替や市況に左右されないリーナな体質の強化を図ってまいります。

事業の概況

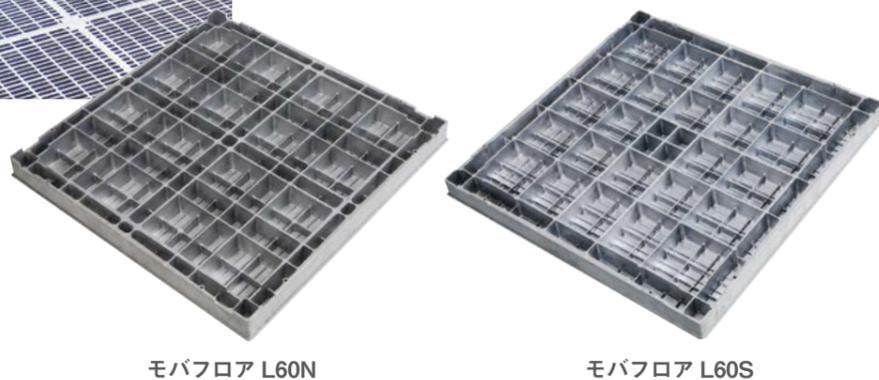
完成品

各方面で導入が進むフリーアクセスフロア
クリーンルーム向けでは、国内シェア No.1 を獲得



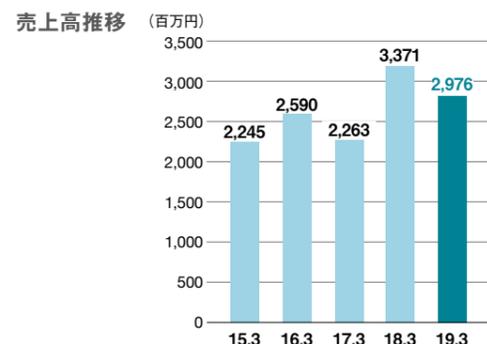
1962年、アーレスティは日本で最初のアルミニウムダイカスト製のフリーアクセスフロアパネル「モバフロア」を開発しました。フリーアクセスフロアとは、配線・配管を床下に納める二重床システムのことです。一般オフィスや病院などに幅広く利用されていますが、当社では特に半導体生産工場などのクリーンルームやデータセンター、コンピュータールーム用フロアパネルに注力しており、クリーンルーム向けでは、国内シェア No.1 を誇っています。

アルミダイカスト専門メーカーの自負・高い技術力を背景に、最軽量フリーアクセスフロアを商品化。アルミダイカスト単一材なので100%リサイクルであり、軽量化により輸送に伴うCO₂削減効果、建築躯体への重量負担減による長寿命化に貢献、期待ができます。



今期の業績報告

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が減少し、売上高は2,976百万円（前期比11.7%減）となりました。収益面においては、主に受注減による影響等により、セグメント利益は314百万円（前期比19.8%減）となりました。



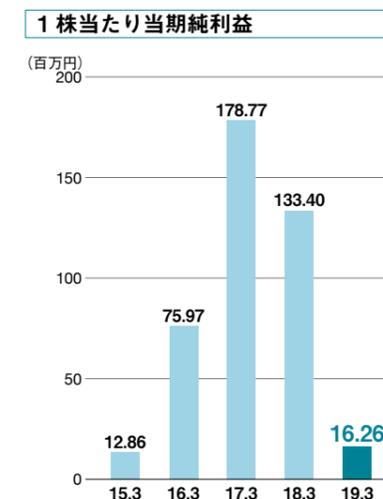
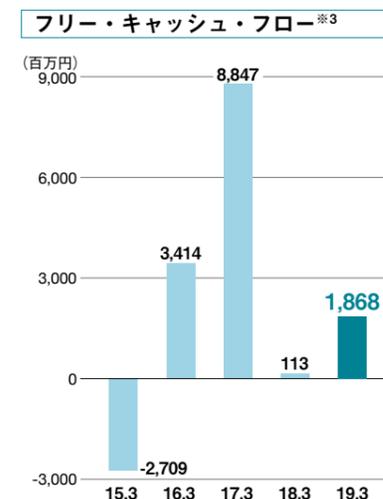
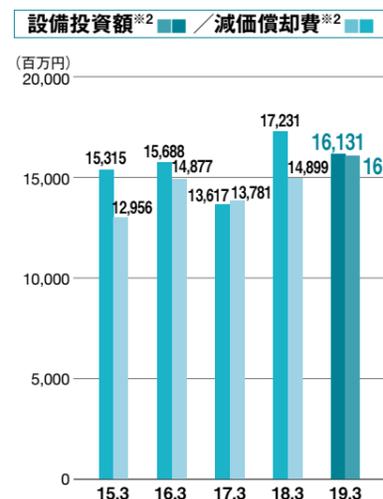
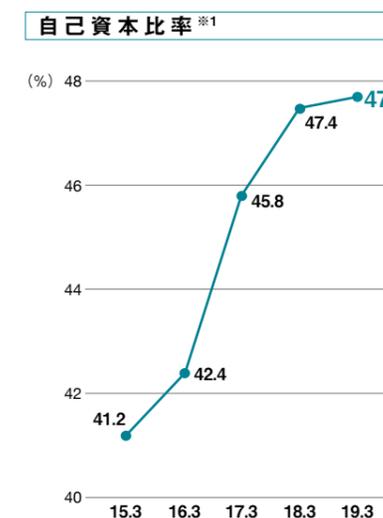
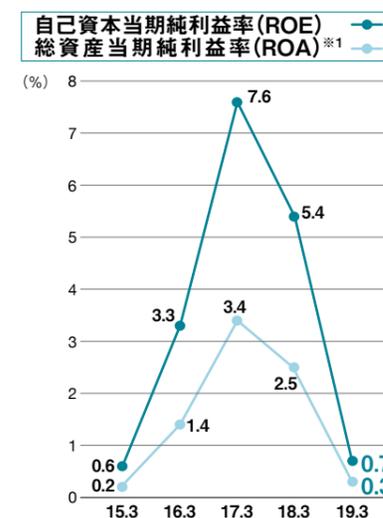
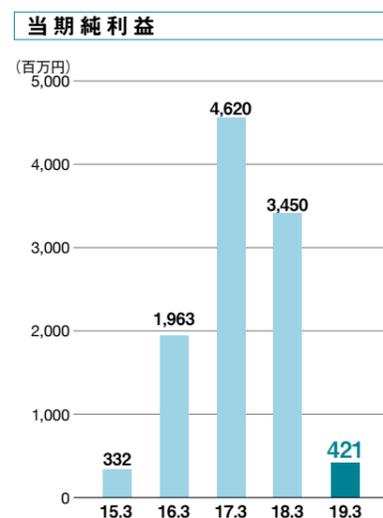
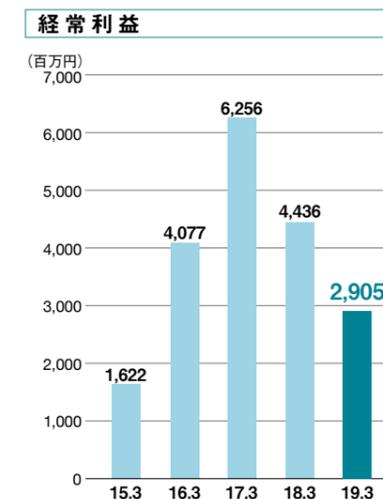
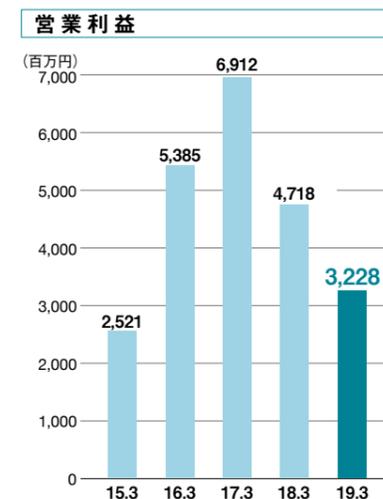
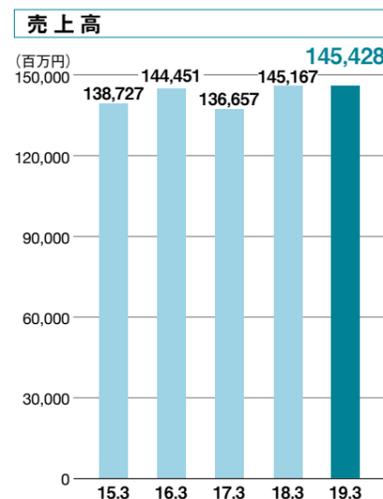
来期への展望

2018年度は計画比109%と計画以上の売上高が確保出来ましたが、特に国内において市場競争が益々激化した事などから前年度よりも減収となりました。

2019年度は市場競争に打ち勝つ提案力や販路開拓などに更に注力して取り組みます。

海外においては中期的には中国を中心に市場拡大が見込まれるため、今後も顧客ニーズを把握し、新商品を市場に投入していくことで販路の拡大を目指します。

連結財務ハイライト



※1 2019年3月期の期首より、「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」等を適用したため、2018年3月期については、遡及適用後の数値を記載しております。
※2 金額は金型を含みます。 ※3 フリー・キャッシュ・フロー= (営業活動によるキャッシュ・フロー) - (投資活動によるキャッシュ・フロー)

企業情報

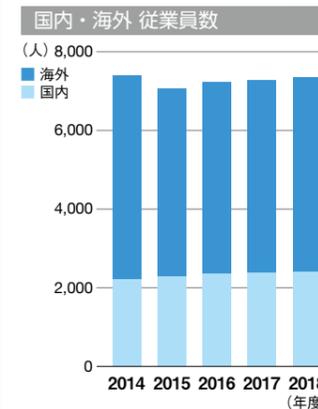
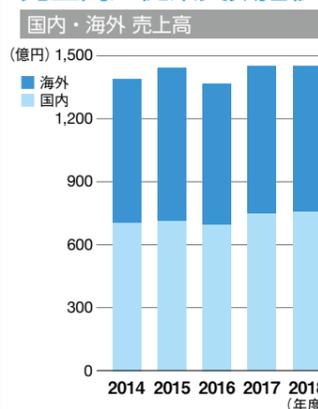
拠点情報

顧客のニーズに対応し、積極的にグローバル展開を推進しています。

主な海外事業所

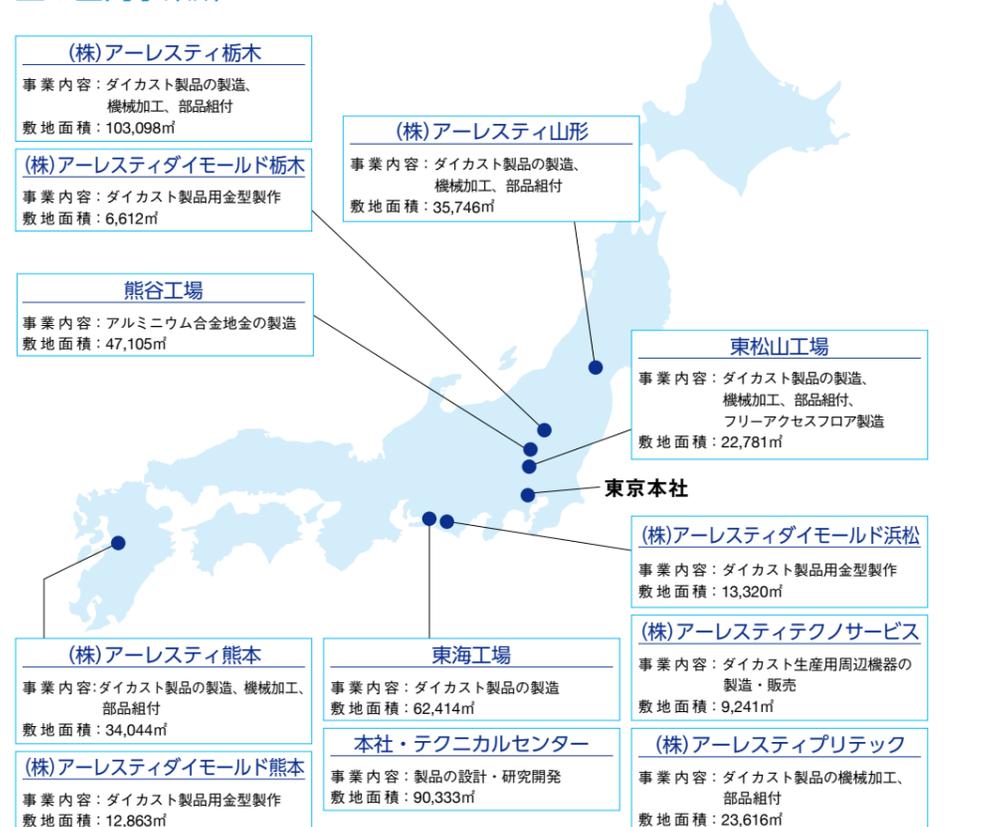


売上高/従業員数推移



※3月末時点

主な国内事業所



会社概要・株式情報

会社概要

会社概要 (2019年3月31日現在)
 商号：株式会社アーレスティ
 資本金：69億64百万円
 設立：1943年11月2日
 従業員数：【連結】7,337名
 【単独】946名

取締役

(2019年6月19日現在)
 代表取締役社長 最高執行責任者 高橋 新
 代表取締役専務執行役員 伊藤 純二
 代表取締役専務執行役員 高橋 新一
 取締役専務執行役員 金田 尚之
 取締役専務執行役員 蒲生 新市
 取締役執行役員 野中 賢一
 取締役(監査等委員) 石丸 博
 社外取締役(監査等委員) 志藤 昭彦
 社外取締役(監査等委員) 塩澤 修平
 社外取締役(監査等委員) 早乙女 雅人
 社外取締役(監査等委員) 森 明吉

株式情報 (2019年3月31日現在)

株式数および株主数

発行可能株式総数：60,000,000株
 発行済株式の総数：26,076,717株
 株主数：5,971名

所有者別株式分布状況



株価・株式売買高の推移



あゆみ



Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research（研究開発）、Service（サービス）、Technology（技術）において常に主導的リーダーとして前進しようという企業姿勢を具現化したものです。なお、「Casting」は「投げかける」という意味の他に、当社の主要事業である「Die Casting」の意味も込めています。

株式会社 **アーレスティ**

東京本社

東京都中野区本町 2-46-1

中野坂上サンブライトツイン 5F

TEL 03-6369-8660 FAX 03-5358-5331

URL <https://www.ahresty.co.jp>

発行 2019年6月

